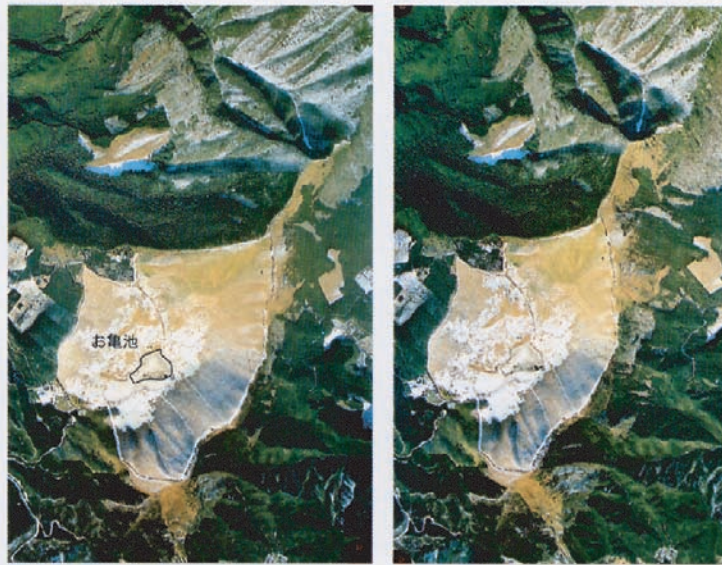


～ お亀池湿原周辺の地形～

二枚の写真を立体視しよう。絶壁と平坦の見事なコントラストが……！



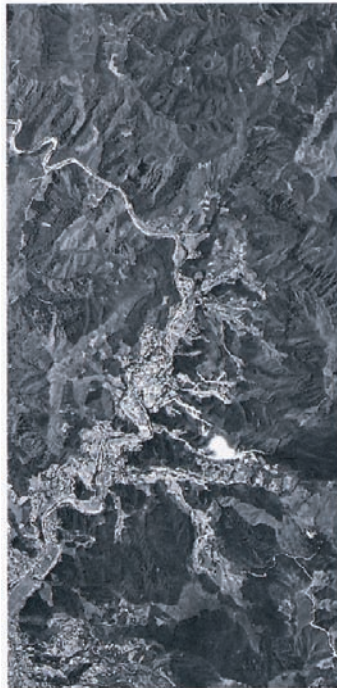
C CB-74-14 C36-21 少し雪をかぶった曾爾高原 C CB-74-14 C36-22

曾爾地域の地形について

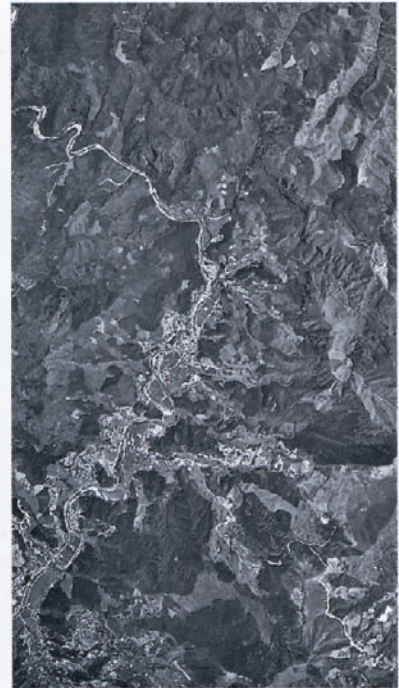
曾爾地域の地形の特徴は、がけが多いことです。

次頁の曾爾のがけマップと合わせてそのようすを空中写真から学ぶことにしましょう。地形は、長い時間をかけて形づくられてきたものです。それには大地をつくっている岩石や地層などの種類、分布のようすやかたさなどが大いに関係しています。曾爾の山々には、はるか昔アジア大陸の一部であった時代、海の時代、湖と激しい火山活動の時代、湖と隆起の時代をしめす岩石や地層などが過去からのメッセージとして残っています。大地を作っているものを調べてがけについて考えてみましょう。

【参考 : シリーズ 曾爾のこともの 25 曾爾の大地を作っているもの】



KK-67-6Y C3A-6



KK-67-6Y C3A-7

曾爾地域の広い範囲を立体視

立体視する方法

紙面から30cmほど離して、右目は右図を、左目は左図を見るようにして、二つの図が重なって立体的に見えるように写真との距離を調節します。見えにくい時には、写真の上の が一つに重なって (合計 3つ) 見える練習をし、そのまま下の写真を見ます。写真の境目に、下敷きなどを立てるのもよいでしょう。なお、この場合、凹凸が非常に強調されて見えます。

(兽雨のがけマップ)



至 中太郎生

池の平湿原

国見山

真留尊山

一本ボソ

少年自然の家

亀山

古光山

青蓮寺川

伊賀見

太良路

至名張

落合

葛

兎岳

鐵岳

今井

塩井

至榛原

小長尾

長野

屏風岩



地形の特徴

< 1,000m近い高地と切り立ったがけ、そのすそのに広がるなだらかな地形 >

この地域には、目立って高い山体がいくつも存在していますが、その高さはだいたい同じで、同じ岩石(1,500万年ごろに激しく活動した室生火山の溶結凝灰岩)です。このことは、ある時期にはこのあたり一面ほぼ同じ高さのなだらかな地形であったことが想像されます。この岩石は非常にかたいのですが、長い時間がたつにつれて岩石にできた独特の割れ目(柱状節理)にそって侵食が進み、垂直ながけとともに谷ができました。

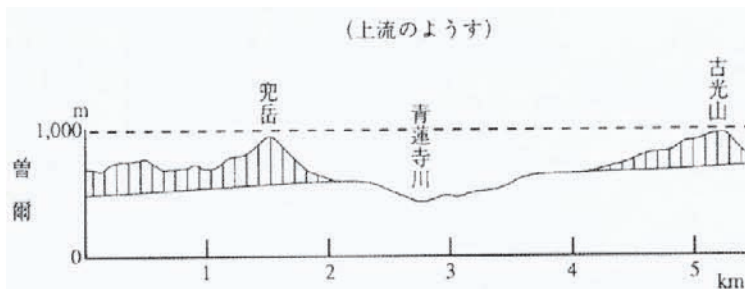
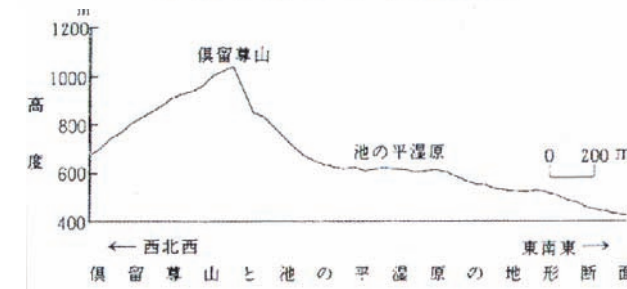
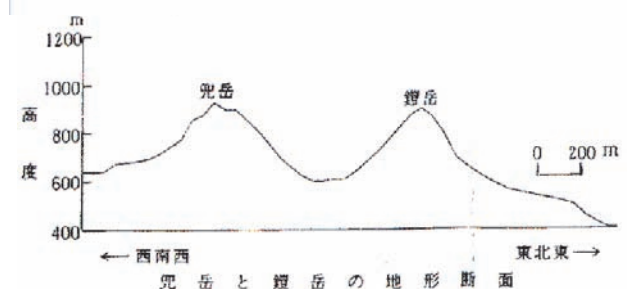
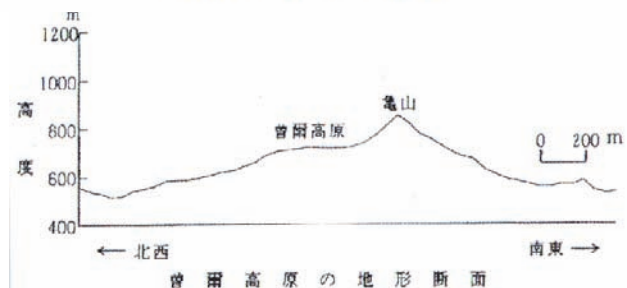
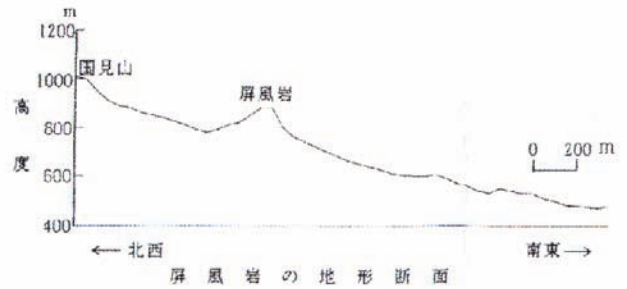
水による侵食の力は、もとの平坦な地形を大きく変えてしまいました。

曾爾の大きな谷の地形

長野から太良路にかけては、青蓮寺川がゆっくりと蛇行しながら流れています。川に沿って平坦面が見られ、開かれた地形となっています。そしてその背後には、垂直ながけをもつ山々が直線状に並んでいます。しかし、隠地から下流の香落溪は川の両面に垂直ながけが迫り、蛇行(下刻曲流)といいますが、して奇景を見せてくれます。このような地形のようすを立体視の写真で確認してみましょう。

侵食の違いを、二カ所の川をはさむ断面図をもとに見てみましょう。古光山から兜岳を結ぶ線と

下流側の香落溪の狭い部分の断面図を見ると、谷の幅の違いがよくわかります。川によって侵食される谷の幅は、ふつう下流の方が広くなりますが、このあたりでは逆に下流の方が狭くなっています。



曾爾(上流)と香落溪(下流)での青蓮寺川の谷幅の比較

凝灰岩層

同じ岩石でできているのに、このように侵食のされかたが違うのは、香落溪の方がかたい(溶結の度合いが高い=火山灰が一度に大量であったとき、熱をもったままたい積し、その熱と火山灰の重みで粒どうしがくっついてかたくなる度合いが高い)岩石だからです。このことは、水の出口が狭く上流が広い湖(古曾爾湖)のような地形になったであろうと容易に想像されます。

立体視の写真から、香落溪周辺の山の上あたりは、深い谷とは反対に、なだらかな平坦面が見られます。これは、上の方が侵食をあまり受けずに残ったものです。川底での侵食が強かったことを示しています。

あなたの地域を空中写真で立体視して、地形について学びましょう

発行年月 平成 14年 3月

執筆者 東森 文昭

参考文献 国立曽爾少年自然の家（1997年発行）

曽爾地域の魅惑を求めて＜大地の生い立ち＞